

平成二十三年（二〇一一年）四月十二日 日本の復興

神から人へ、人から神へ。

人の心の汚れを落とし、御魂の昇華、靈性向上、そのみが地球を救うよすがよ。

これまで穢せし人の心の、我欲と執着、傲慢不遜。

懼れを知らぬ 神への冒瀆。自然を蹂躪、地球を虐待。

全ては人の心が招きし、結果の現れ、因果なり。

なれども今は最後の機会。

人が自ら省みて、己の招きし災厄を、真摯に謙虚に悔い改めて、新たな世界の創造に、踏み出す勇氣のありやなしや。

今日までの己の過ち、その悔い改めが足りなくなれば、地球浄化を止めるあたわず。

日本一つの国のみ、罪科ならぬことなれど、全ては一蓮托生の、同じ命を共にするもの。

我欲の心の蔓延し、行き着く先は破滅のみ。それが今立たされし、人の姿よ。

全てが整い、狂うことなく、命の循環 繰り返し、その繰り返しが進化を進める。

それが真理なり。宇宙の則なり。

日本の復活、復興は、地球の運命を示す縮図よ。

調和の世界を新生し、全てが一つの統一。互いが互いを活かし合い、神を敬い、自然を尊ぶ、靈性高き世を築けるか。

既に地球に猶予はあらず。一触即発、瀕死の際なり。

神の示せし警告を、未だ解せぬ愚昧の民は、残すに足らぬ存在なれど、神の仕組みに差別なし。

地球浄化のためならば、一人ひとりの区別なし。

全ては同根同罪なり。

贖あがなう術すべは ただひとつ。人のなすべきことをなすのみ。

人の命の根源なる、神の御魂よみがを蘇よみがえらせよ。

汚けがせし御魂を浄め磨きて、元なる光を取り戻すべし。

古代いにしえ、神と共にあるとき、人の御魂は輝けり。奇跡を行い、病もなかりき。

今ある人の多くは病みて、心の闇も深からむ。

神への祈りは忘れられ、御魂を清める術すべもなし。

人の尊とつとき言霊ことごこそが、御魂浄化の技ならむ。

祈りに乗せよ、清き思いを。

思いはことばの言霊となり、地上の森羅万象しんらばんしやうに、神の奇跡を発動させむ。

今衰おとしろえし 言霊を、祈りの力を 復活させよ。

血路は開かれ、救いは見えむ。

人の愚考は最も危あやうし。

神のみ声も、宇宙の則のりも、地球の思いも 知ることなく、同じ過あやまち 繰り返さむ。

今こそ目覚めよ、気づけよ、動けよ。

今このときを失うなかれ。

神も宇宙も、地球を救わむ。人を守りて 救いたし。

神の切なる願いよ、届け。

気づきし人から、始めてゆけよ。やがては大きなうねりとなりて、人の全てが、目覚めを果たさむ。

最後の時の訪れるまで、神は待つのみ、祈るのみ。人が正しき答を返すを。